

教科名	音 楽 科
-----	-------

学校番号 (23) 学校名 (上石神井中学校)

○現状分析 (日常の学習活動から見られる学習の定着状況)

1年	小学校のときの学習内容の定着にはばらつきがあるが、様々な練習に地道に取り組むことができる。歌唱に関しても抵抗感は少ないが、積極性には欠ける。鑑賞では思ったことや感じたことは書けるが音楽の要素にからめて書くことはまだ難しい。
2年	歌唱やリコーダーなど様々な練習に前向きにまた積極的に取り組むことができる。表現活動に対してチャレンジ精神が旺盛であり、意欲的である。鑑賞では思ったことや感じたことは書けるが、批評文を書くということには苦手意識を持っている生徒が多い。
3年	歌唱やリコーダーの練習に対して真面目に取り組むことができる。鑑賞では、音楽の8要素を取り入れて感想を書くということに慣れてきて、批評文を書くという段階まで来ている生徒が増えてきた。さらに、そのような生徒を増やしていきたい。

○指導方法の課題分析と具体的な授業改善策

	指導方法の課題分析	具体的な授業改善策	補充的・発展的な学習指導計画
1年	<ul style="list-style-type: none"> <li>音楽用語の読み方に関して統一されていない。</li> <li>曲を聴いて感想を書く際に音楽を形作っている要素や構造と曲想とのかかわりを感じ取ることができていない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>知識として覚えなければならないことを正しく統一して覚えさせる。</li> <li>音楽を形作っている要素や構造などを理由としてあげるように具体的に指示を出す。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>授業でその都度、確認をして正しく覚えさせる。定期考査に出題して定着を図る。</li> <li>音楽を形作っている8要素を授業内でその都度触れて、理解・定着する機会を増やす。</li> </ul>
2年	<ul style="list-style-type: none"> <li>自分のパートだけではなく他のパートを聴き合わせる。</li> <li>批評文が感想文にとどまってしまう。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>個人練習やパート練習など自主的に練習できる時間をより多く取るようにする。</li> <li>批評文を書く量にだけこだわらるのではなく、書く回数を増やすことで批評文を書くことに慣れさせる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>パートリーダーだけを集めた勉強会などをする。</li> <li>よく書けている批評文をみんなの前で読んだり、掲示したりして個々の表現力を高める一助とする。</li> </ul>
3年	<ul style="list-style-type: none"> <li>歌唱、器楽の指導において一斉指導だけでは指導が行き届かない生徒が数名いる。</li> <li>批評文を書ける生徒を増やす。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>一斉指導の後で必要な生徒に関しては個別指導をする。</li> <li>批評文を書く時間を十分に確保する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>授業の前後など授業以外の時間を利用して個別指導を行い技能を身に付けさせる。</li> <li>よく書けている批評文をみんなの前で読んだり、掲示したりして個々の表現力を高める一助とする。</li> </ul>